

# 期末棚卸の決算仕訳 ハンドブック



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。  
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。  
※当資料は、2026年1月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

# 期末棚卸の決算仕訳ハンドブック

## 期末商品棚卸高の基本と決算書への影響

期末商品棚卸高とは、会計年度末日時点の商品在庫の額を指し、棚卸資産として決算書に記載されます。この数値は、正確な売上原価の算定に不可欠です。

### 期末商品棚卸高の定義

商品の総受け入れ額（期首商品棚卸高＋当期商品仕入高）から、当期の売上に対応する売上原価（払出し額）を差し引いた残高が、期末商品棚卸高（在庫）となります。

### 売上原価の算定式（仕入勘定残高の確定）



計算式

売上原価

=

期首商品棚卸高

+

当期商品仕入高

-

期末商品棚卸高

### 決算書における表示

決算書	関連項目	役割
貸借対照表（B/S）	資産の部：商品・製品・仕掛品・原材料など	実地棚卸後の価額（帳簿残高から棚卸減耗損・商品評価損を控除した額）が表示されます。
損益計算書（P/L）	売上原価	売上原価の内訳として、上記の算定式で用いられます。

# 期末棚卸の決算仕訳ハンドブック

## 【三分法】期末の決算整理仕訳とその目的

三分法を採用している場合、期中に商品勘定の残高を動かさないため、期末に以下の決算整理仕訳を行い、期首残高の振替と期末残高の計上を行います。

### 決算整理仕訳の具体的な流れ

この仕訳により、仕入勘定の残高が最終的に「売上原価」となります。

No.	処理内容	借方勘定	金額	貸方勘定	金額
①	期首商品の振替 (期首棚卸高を仕入勘定に算入)	仕入	200,000	繰越商品	200,000
②	期末商品の計上 (期末棚卸高を繰越商品勘定に計上し、仕入から控除)	繰越商品	300,000	仕入	300,000

(例：期首商品棚卸高20万円、期末商品棚卸高30万円の場合)

### 仕訳の目的

仕訳	目的
① 期首振替	資産（繰越商品）として残っていた期首残高を当期の原価要素（仕入）に含める。
② 期末計上	当期の原価要素（仕入）から、在庫として残った期末棚卸高を外し、次期に繰り越す資産（繰越商品）として計上する。

# 期末棚卸の決算仕訳ハンドブック

## 棚卸高の評価と翌期への繰り越し

期末商品棚卸高の正確な金額を確定するためには、適切な商品の評価と在庫の確認（棚卸）が必要です。

### 期末商品棚卸高の評価方法

商品価格の変動に対応するため、期末の在庫をどのように評価するか（取得単価を決定するか）が重要になります。

評価方法	概要	計算の考え方
先入先出法	先に仕入れたものから払い出されると仮定し、最も新しい仕入単価で残高を評価する。	期末に残る在庫は、最も直近に仕入れた商品と見なす。
総平均法	会計期間中の総仕入額と期首残高から、平均取得単価を算出し、その単価で残高を評価する。	$\text{（期首残高} + \text{当期仕入額）} \div \text{（期首個数} + \text{当期仕入個数）}$ で単価を求める。

### 在庫の確認（棚卸）と翌期への関係

期末商品棚卸高の額は、翌期の会計処理の出発点となります。

- ・ **在庫確認**：帳簿上の在庫を確認する「帳簿棚卸」と、実際に商品を数える「実地棚卸」があります。
- ・ **翌期への関係**：当期の期末商品棚卸高は、そのまま翌期の期首商品棚卸高となります。

**ポイント**：正しく決算整理仕訳を行い、期末商品棚卸高を確定させることで、貸借対照表の資産科目と、損益計算書の売上原価を正しく表示できます。